

令和5年度

登録販売者試験問題

【午後の部】

令和5年10月17日(火)

13:30～15:30

※試験監督の指示があるまでは、手を触れないこと。

1. 開始後90分を経過するまでは、原則、途中退席は認めないこと。
2. 試験開始後は、まず、出題数が60問あることを確認し、解答用紙に受験番号を記入すること。なお、解答用紙に受験番号の記載がない場合、点数を与えないこと。
3. 解答は、該当するものを1つ選び、解答用紙に番号を記入すること。2つ以上の番号を記入した場合や番号以外を記入した場合、解答は無効となること。
4. 試験問題は持ち帰ること。

合格発表 合格者の発表は、令和5年11月28日(火)午前10時に島根県ホームページに合格者の受験番号を掲載するとともに、合格者には合格証を送付します。

得点開示 合格発表の日から1ヶ月間、受験者本人に限り、個人情報の保護に関する法律第69条第2項第1号の規定に基づく口頭開示を実施します。

希望者は、運転免許証又はパスポート等、受験者本人であることが確認できる書類を持参の上、当課にお越しくください。

なお、電話による開示はできません。

島根県健康福祉部薬事衛生課

主な医薬品とその作用

問1 痛みや発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛成分の働きに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 プロスタグランジンは、ホルモンに似た働きをする物質で、病気や外傷があるときに活発に産生されるようになり、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みを強めている。
- 2 プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する。
- 3 化学的に合成された解熱鎮痛成分は、中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生を抑制することにより、解熱作用を示す。
- 4 化学的に合成された解熱鎮痛成分は、腎臓における水分の再吸収を促し、循環血流量を増加させることにより、発汗を抑制する作用もある。

問2 解熱鎮痛薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a イブプロフェンは、一般用医薬品においては、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も使用してはならない。
- b ボウイは、フトミミズ科の *Pheretima aspergillum* Perrier 又はその近縁動物の内部を除いたものを基原とする生薬で、古くから「熱さまし」として用いられてきた。
- c アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすく、アスピリンアルミニウム等として胃粘膜への悪影響の軽減を図っている製品もある。
- d シャクヤクは、ボタン科のシャクヤクの根を基原とする生薬で、鎮静作用を示すが、内臓の痛みには効果がない。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問3 次の成分を含むかぜ薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

6 カプセル中 (成人1日量)

アセトアミノフェン	500mg
エテンザミド	400mg
<i>d</i> -クロルフェニラミンマレイン酸塩	7.5mg
<i>d</i> <i>l</i> -メチルエフェドリン塩酸塩	40mg
無水カフェイン	120mg

- a 本剤には、サリチル酸系解熱鎮痛成分が含まれている。
- b 本剤には、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として抗ヒスタミン成分が配合されている。
- c アセトアミノフェンは、中枢における解熱・鎮痛作用と併せて、末梢における抗炎症作用も期待できる。
- d *d**l*-メチルエフェドリン塩酸塩は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問4 眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚醒せいに関する部位で神経細胞の刺激を介して、覚醒せいの維持や調節を行う働きを担っている。
- b ブロモバレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする作用があり、不眠症や不安緊張状態の鎮静を目的に用いられ、近年は使用量が増加している。
- c ジフェンヒドラミン塩酸塩は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
- d 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	正

問5 以下の記述にあてはまる神経質、精神不安、不眠等の症状の改善を目的とした漢方処方製剤として、最も適するものはどれか。

体力中等度以下で疲れやすく、神経過敏で、興奮しやすいものの神経質、不眠症、小児夜なき、夜尿症、眼精疲労、神経症に適すとされる。

- 1 釣藤散
ちょうとうさん
- 2 疎経活血湯
そけいかくけつとう
- 3 柴胡加竜骨牡蛎湯
さいこかりゅうこつぼれいとう
- 4 桂枝加竜骨牡蛎湯
けいしかりゅうこつぼれいとう

問6 乗物酔い防止薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、アミノ安息香酸エチルのような局所麻酔成分が配合されている場合がある。
- 2 脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、カフェイン（無水カフェイン等を含む。）が配合されている場合がある。
- 3 メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く、持続時間が長い。
- 4 ジフェニドール塩酸塩は、外国において、乳児突然死症候群のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。

問7 鎮咳去痰薬の配合成分とその配合目的に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】

【配合目的】

- | | | | |
|---|-------------|---|-----------------|
| a | ノスカピン | — | 中枢神経系に作用して咳を抑える |
| b | ジメモルファンリン酸塩 | — | 気管支を拡張する |
| c | カルボシステイン | — | 痰の切れを良くする |
| d | ブロムヘキシン塩酸塩 | — | 炎症を和らげる |

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問8 交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示す生薬成分として、正しいものはどれか。

- 1 オウヒ
- 2 ダイオウ
- 3 マオウ
- 4 オウバク

問9 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐きながら噴射することが望ましい。
- b 口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響は生じない。
- c 口腔咽喉薬には、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分は配合されておらず、これらの成分が配合されている場合には鎮咳去痰薬に分類される。
- d 含嗽薬は即効性があるため、使用後すぐに食事を摂取しても、殺菌消毒効果に対する影響はほとんどない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問10 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して、グリセリンが配合されている場合がある。
- b 声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
- c クロルヘキシジングルコン酸塩は、低刺激性の殺菌消毒成分であるため、口腔内に傷がある人でも使用することができる。
- d 妊娠中に摂取されたヨウ素の一部は血液-胎盤関門を通過して胎児に移行するため、ヨウ素系殺菌消毒成分を長期間にわたって大量に使用した場合には、胎児にヨウ素の過剰摂取による甲状腺機能障害を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 11 胃の薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アルジオキサはマグネシウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、ロートエキスが配合されている場合がある。
- c ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされるが、消化管以外では一般的な抗コリン作用のため、排尿困難、動悸、目のかすみの副作用を生じることがある。
- d セトラキサート塩酸塩は、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じることから、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人では、使用する前にその適否について、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 12 以下の漢方処方製剤のうち、胃の不調を改善する目的で用いられるものはどれか。

- 1 ちよれいとう
猪苓湯
- 2 だいおうかんぞうとう
大黄甘草湯
- 3 まきょうかんせきとう
麻杏甘石湯
- 4 りっくんしとう
六君子湯

問 13 止瀉薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ベルベリン塩化物は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- 2 ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いられることを目的としており、食あたりや水あたりによる下痢については適用対象ではない。
- 3 ゴバイシは、過剰な腸管の（蠕動）運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌も抑える止瀉作用がある。
- 4 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

問 14 瀉下成分のうち、腸管を刺激して反射的な腸の運動を引き起こすことによる瀉下作用を目的として配合される成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジオクチルソジウムスルホサクシネート（DSS）
- b ビサコジル
- c カルメロースナトリウム（別名：カルボキシメチルセルロースナトリウム）
- d センノシド

1（a，b） 2（a，c） 3（a，d） 4（b，c） 5（b，d）

問 15 胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分とその副作用に関する記述について、誤っている組み合わせはどれか。

【配合成分】	【副作用】
1 パパベリン塩酸塩	－ 眼圧上昇
2 パパベリン塩酸塩	－ 散瞳による目のかすみ
3 ジサイクロミン塩酸塩	－ 口渇
4 ジサイクロミン塩酸塩	－ 便秘

問 16 浣腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬を繰り返し使用すると直腸の感受性の低下（いわゆる慣れ）が生じて効果が弱くなる。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- c 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 注入剤を使用した後、すぐに排便を試みないと、効果が十分に得られない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 17 駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 条虫（いわゆるサナダ虫など）や吸虫の駆除を目的とする一般用医薬品はないため、これらについては、医療機関を受診して診療を受けるなどの対応が必要である。
- b 消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
- c パモ酸ピルベニウムは、^{ぎょう}蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
- d カイニン酸は、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び^{ぎょう}蟯虫の運動筋を^ひ麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問 18 強心薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ロクジョウは、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬である。
- 2 センソは、有効域が比較的狭い成分であり、一般用医薬品では、1日用量が 50 mg 以下となるように用法・用量が定められている。
- 3 ロクジョウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされている。
- 4 センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で^か噛み砕くと舌等が^ひ麻痺することがあるため、^か噛まずに服用することとされている。

問 19 血中コレステロール及び高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コレステロールは細胞の構成成分で、コレステロールの産生及び代謝は、主として脾臓で行われる。
- b コレステロールは水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したりリポタンパク質となって存在する。
- c 大豆油不けん化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- d パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問 20 貧血用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血は、その原因によりビタミン欠乏性貧血、鉄欠乏性貧血等に分類されるが、鉄製剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。
- b 鉄製剤の服用前後 30 分に緑茶のようにタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収が悪くなることがある。
- c クエン酸鉄アンモニウムは、不足した鉄分を補充することを目的として配合される。
- d マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髓での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問 21 外用痔疾用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるクロタミトンが配合されている場合がある。
- b 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、組織修復成分であるイソプロピルメチルフェノールが配合されている場合がある。
- c 痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、セチルピリジニウム塩化物が配合されている場合がある。
- d 肛門周囲の末梢血管を拡張する作用を期待して、ナファゾリン塩酸塩が配合されている場合がある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 22 以下の漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 六味丸は、体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少又は多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、しびれ等に適すとされる。
- 2 牛車腎気丸は、体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少し、むくみがあり、ときに口渇があるものの排尿困難、頻尿、むくみ等に適すとされる。
- 3 八味地黄丸は、体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿でときに口渇があるものの排尿困難、夜間尿、軽い尿漏れ等に適すとされる。
- 4 竜胆瀉肝湯は、体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

問 23 婦人薬の適用対象となる症状及び配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品であり、更年期障害には用いられない。
- b 月経前症候群とは、月経の約 10～3 日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状や感情の不安定、抑うつなどの精神症状を主体とするものをいう。
- c 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、^{ちっ}膣粘膜又は外陰部に適用されるものがあり、適用部位から吸収されて循環血液中に移行する。
- d 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 24 内服アレルギー用薬の配合成分とその配合目的に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】	【配合目的】
a	フェニレフリン塩酸塩	— アドレナリン作動成分
b	トラネキサム酸	— 抗コリン成分
c	ピリドキシン塩酸塩	— 抗炎症成分
d	メキタジン	— 抗ヒスタミン成分

1 (a , c) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 25 点鼻薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スプレー式鼻炎用点鼻薬は、容器をなるべく鼻に密着させて使用し、使用後には鼻に接した部分を清潔なティッシュペーパー等で拭いて清潔に保っておく必要がある。
- b アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}の諸症状のうち、鼻づまり、鼻水等の緩和を目的として配合される。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問 26 点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼薬は、結膜囊^{のう}に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- b 点眼後に目尻を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- c 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから長期間を経過した製品は、使用を避けるべきである。
- d 点眼薬のうち、1回使い切りタイプとして防腐剤を含まない製品では、ソフトコンタクトレンズ装着時に使用できるものがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 27 次の成分を含む点眼薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

1 mL 中

スルファメトキサゾール	0.5 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	5.0 mg
アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）	3.0 mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	0.2 mg

- a 細菌感染による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼^{けん}瞼^{のう}炎などの化膿性の症状の改善を目的として、スルファメトキサゾールが配合されている。
- b 目の痒^{かゆ}みを和らげることを目的として、クロルフェニラミンマレイン酸塩が配合されている。
- c 角膜の乾燥を防ぐことを目的として、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている。
- d 眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して、コンドロイチン硫酸ナトリウムが配合されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 28 一般的な創傷への対応及び殺菌消毒薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オキシドール的一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用は、持続性があり、組織への浸透性も高い。
- b 殺菌消毒薬のうち、エタノールは、手指・皮膚の消毒、器具類の消毒に用いられるが、皮膚刺激性が強いため、創傷面の殺菌・消毒には用いられない。
- c 水洗が不十分で創傷面の内部に汚れが残ったまま、創傷表面を乾燥させるタイプの医薬品を使用すると、内部で雑菌が増殖して化膿^{のう}することがある。
- d 創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し適用すると、殺菌消毒成分により組織修復が妨げられて、状態を悪化させることがある。

1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 29 皮膚に用いる薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a デキサメタゾン^ンは、ステロイド性抗炎症成分であり、患部が広範囲にわたっている人では、短期間の使用であっても、適用部位を限る等、過度の使用を避けるべきである。
- b フェルビナクは、非ステロイド性抗炎症成分であり、筋肉痛、関節痛等による鎮痛を目的として用いられるほか、殺菌作用があるため、皮膚感染症に対しても効果が期待できる。
- c サリチル酸メチルは、局所刺激により患部の血行を促し、また、末梢の知覚神経に軽い麻痺^ひを起こすことにより、鎮痛作用をもたらすと考えられている。
- d ヘパリン類似物質は、血液凝固を促すほか、抗炎症作用や保湿作用も期待される。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 30 白癬^{せん}の治療に用いる抗真菌薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- b ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- c ブテナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える。
- d 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏^{こう}が適すとされ、皮膚が厚く角質化している部分には液剤が適している。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 31 毛髪用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 毛髪用薬のうち、「壮年性脱毛症」等の疾患名を掲げた効能・効果は、医薬品においてのみ認められている。
- b カルプロニウム塩化物は、末梢組織においてコリン作用を示し、発毛効果が期待されるが、コリンエステラーゼによる分解を受けやすいため、作用が持続しない。
- c カシユウは、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- d ヒノキチオールは、抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 32 歯痛薬及び歯槽膿漏薬^{のう}の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a オイゲノールは、歯の齲蝕^{うしょく}（むし歯）により露出した歯髓を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる。
- b フィトナジオンは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して用いられる。
- c カルバゾクロムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して用いられる。
- d サンシシは、アカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 33 口内炎及び口内炎用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、栄養摂取の偏りやストレスなどが要因となって生じる口腔粘膜の炎症であり、ウイルスによって生じることはない。
- b 口内炎用薬は、口腔内を清浄にしてから使用することが重要であり、口腔咽喉薬や含嗽薬などを使用する場合には、十分な間隔を置くべきである。
- c アクリノールは、患部からの細菌感染を防止することを目的として用いられる。
- d 茵蔯蒿湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、胃腸が弱く下痢しやすいものの蕁麻疹、口内炎、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問 34 禁煙補助剤に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が上昇するため、コーヒーや炭酸飲料などを摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- 2 うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける必要がある。
- 3 母乳を与えている女性は、禁煙することが推奨されるので、禁煙補助剤を使用することが望ましい。
- 4 咀嚼剤は、ゆっくりと断続的に嚙むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい、吐きけや腹痛等の副作用が現れやすくなる。

問 35 滋養強壯保健薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a トコフェロールは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける作用がある。
- b ニンジン、ジオウ、トウキ、センキュウが既定値以上配合されている生薬主薬保健薬については、虚弱体質、食欲不振、冷え症等における滋養強壯の効能が認められている。
- c システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあるとされる。
- d ガンマ-オリザノールは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感^{けん}や疲労時の栄養補給を目的として配合されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 36 漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方処方、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、漢方薬とは明らかに別物である。
- c 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない漢方処方製剤は、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。
- d 一般の生活者が漢方薬を購入する際には、漢方処方製剤を使用しようとする人の「証」(体質及び症状)を理解し、その「証」にあった漢方処方を選択することが出来るよう、医薬品の販売等に従事する専門家が助言を行うことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 37 消毒薬及びその成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 消毒薬が誤って皮膚に付着した場合は、流水をかけながら着衣を取り、石けんを用いて流水で皮膚を十分に（15 分間以上）水洗し、特にアルカリ性の場合には中和剤を用いる。
- b イソプロパノールは、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させることで、真菌類及びウイルスに対する殺菌消毒作用を示すが、結核菌に対する殺菌消毒作用はない。
- c クレゾール石ケン液は、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d 有機塩素系殺菌消毒成分であるジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられているため、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 38 衛生害虫及び殺虫剤、忌避剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ツツガムシは、ツツガムシ病リケッチアを媒介するノミの一種である。
- b ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、燻蒸^{くん}処理を行っても殺虫効果を示さない。
- c フェノトリンは、シラミ^{こう}の刺咬^{かゆ}による痒みや腫れ等の症状を和らげることを目的として、シャンプーやてんか粉に配合されている。
- d イカリジン^{イカリジン}は、年齢による使用制限がない忌避成分であり、蚊やマダニなどに対して効果を発揮する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 39 殺虫剤に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、有機リン系殺虫成分であり、殺虫作用は、アセチルコリンを分解する酵素(アセチルコリンエステラーゼ)と(b) に結合してその働きを阻害することによる。ほ乳類では、高濃度又は多量に曝露した^{ばく}場合、神経の異常な興奮が起こり、(c)、呼吸困難、筋肉麻痺^ひ等の症状が現れるおそれがある。

	a	b	c
1	ペルメトリン	可逆的	縮瞳
2	ペルメトリン	不可逆的	散瞳
3	フェンチオン	不可逆的	散瞳
4	フェンチオン	不可逆的	縮瞳
5	フェンチオン	可逆的	散瞳

問 40 妊娠及び妊娠検査薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊娠初期(妊娠 12 週まで)は、胎児の脳や内臓などの諸器官が形づくられる重要な時期であり、母体が摂取した物質等の影響を受けやすい時期でもある。
- b 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することができる。
- c 早朝尿(起床直後の尿)は、尿中hCGが検出されにくいため、妊娠検査薬の検体として向いていない。
- d 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

医薬品の適正使用と安全対策

問41 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売等に従事する専門家が購入者等へ情報提供を行う際は、個々の生活者の状況に関わらず、添付文書に記載されている内容を全て説明しなければならない。
- b 添付文書は、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- c 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれる場合であっても、必ず記載されなければならない。
- d 副作用については、まず、まれに発生する重篤な副作用について副作用名ごとに症状が記載され、そのあとに続けて、一般的な副作用について関係部位別に症状が記載される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問42 一般用医薬品の添付文書を構成する項目のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 製造年月日
- b 製品の特徴
- c 製造販売業の許可番号
- d 製造販売業者の名称及び所在地

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問43 一般用医薬品とその添付文書における「使用上の注意」の欄の記載事項について、正しいものの組み合わせはどれか。

	医薬品	「使用上の注意」の記載事項
a	小児が使用した場合に、特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品	通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等として記載されている。
b	併用すると作用の増強、副作用等のリスクの増大が予測される医薬品	「本剤を使用（服用）している間は、次の医薬品を使用（服用）しないこと」の項に、使用を避ける等適切な対応が図られるよう記載されている。
c	重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症等が掲げられている医薬品	「本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人は注意して使用すること」と記載されている。
d	服用前後に摂取されたアルコールによって、作用の増強、副作用を生じる危険性の増大等が予測される医薬品	「相談すること」の項に「飲酒をする人」と記載されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問44 一般用医薬品の添付文書の成分及び分量の項目において、添加物として配合されている成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 有効成分の名称及び分量の記載と併せて掲げられている。
- b 厚生労働省の通知に基づいて、添付文書及び外箱への記載がなされている。
- c 「香料」「pH調整剤」などのように用途名で記載することはできない。
- d 商取引上の機密にあたる添加物については、「その他n成分」（nは記載から除いた添加物の成分数）として記載している場合もある。

1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問45 一般用医薬品の添付文書の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適切な保管がなされないと化学変化や雑菌の繁殖等を生じることがあり、特にシロップ剤は変質しやすく、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- b 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替えると、移し替えた容器が湿っていたり、汚れていたたりした場合、医薬品として適切な品質が保持できなくなるおそれがある。
- c 点眼薬では、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、「他の人と共用しないこと」等と記載されている。
- d 危険物に該当する製品における消防法（昭和23年法律第186号）に基づく注意事項は、添付文書において「保管及び取扱い上の注意」として記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問46 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「使用上の注意」、「してはいけないこと」及び「相談すること」の各項目の見出しには、標識的マークが付されていることが多い。
- b 「してはいけないこと」には、一般用検査薬では、検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が記載されている。
- c 「相談すること」には、その医薬品を使用する前に、その適否について専門家に相談した上で適切な判断がなされるべきである場合として、「医師（又は歯科医師）の治療を受けている人」等の記載がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

問47 医薬品の安全対策に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告をしなければならない医薬関係者には、薬局開設者、医師、歯科医師又は薬剤師等を含み、登録販売者は含まれていない。
- b 医薬品の市販後においても、常にその品質、有効性及び安全性に関する情報を収集し、また、医薬関係者に必要な情報を提供することが、医薬品の適切な使用を確保する観点からも、企業責任として重要なことである。
- c 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、10年を超えない範囲で厚生労働大臣が承認時に定める一定期間（概ね8年）、承認後の使用成績等を集積し、厚生労働省へ提出する制度（再審査制度）が適用される。
- d 各制度により集められた副作用情報については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問48 医薬品副作用被害救済制度に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 本制度は、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として1980年5月より運営が開始された。
- b 健康被害を受けた本人（又は家族）の給付請求を受けて、医学的薬学的判断を要する事項について医療審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて、医療費等の各種給付が行われる。
- c 医療用医薬品の副作用により一定の健康被害が生じた場合には、適正に使用したかどうかにかかわらず、医療費等の給付を行い、これにより被害者の迅速な救済を図ろうというのが、医薬品副作用被害救済制度である。
- d 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられるほか、事務費については、その2分の1相当額は国庫補助により賄われている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問49 医薬品副作用被害救済制度における救済給付の種類に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 給付の種類としては、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料がある。
- 2 この制度における医療費とは、医薬品の副作用による疾病の治療に要した費用を定額で補償するものである。
- 3 給付の種類によっては、請求期限が定められており、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金はいずれも一定の期限を過ぎた分については請求できないので、注意する必要がある。
- 4 医療費、医療手当の給付の対象となるのは副作用による疾病が「通院治療を必要とする程度」の場合である。

問50 医薬品副作用被害救済制度や救済給付に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の販売等に従事する専門家においては、健康被害を受けた購入者等に対して救済制度があることや、救済事業を運営する独立行政法人医薬品医療機器総合機構の相談窓口等を紹介し、相談を促すなどの対応が期待される。
- 2 医薬品副作用被害救済制度における障害児養育年金とは、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある18歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。
- 3 医薬品の副作用であるかどうか判断がつかない場合は、給付請求を行うことはできない。
- 4 副作用被害への救済給付の請求に当たっては、医師の診断書、要した医療費を証明する書類（受診証明書）などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書等が必要となる。

問51 一般用医薬品の安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用である間質性肺炎で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生した。
- b アンプル剤は錠剤、散剤等に比べて吸収が速く、血中濃度が急速に高値に達するため、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたことから、1965年、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- c アンプル剤以外の一般用かぜ薬についても、1970年に承認基準が制定され、成分・分量、効能・効果等が見直された。
- d 現在、かぜ薬のほか、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、胃腸薬等について、承認基準が制定されているが、鼻炎用点鼻薬や外用痔疾用薬については、承認基準が制定されていない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

問52 塩酸フェニルプロパノールアミン（P P A）含有医薬品の安全対策等に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 塩酸フェニルプロパノールアミン（P P A）は、鼻づまり等の症状の緩和を目的として、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていた。
- 2 P P A含有医薬品は、米国では2000年に女性の食欲抑制剤としての使用で、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、自主的な販売中止が要請されたが、日本では食欲抑制剤としての承認がないことなどから、注意喚起は行われなかった。
- 3 2003年8月までに、日本でもP P Aが配合された一般用医薬品による副作用症例が複数報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている高血圧症患者の使用によるものであった。
- 4 日本でも副作用症例が複数報告された後、厚生労働省から関係製薬企業等に対してP P Aの代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩（P S E）等への速やかな切替えにつき指示がなされた。

問53 小柴胡湯しょうさいことうによる間質性肺炎に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2か所の(a)内及び(b)内はそれぞれ同じ字句が入る。

小柴胡湯しょうさいことうによる間質性肺炎については、1991年4月以降、(a)に記載されていたが、その後、小柴胡湯しょうさいことうと(b)の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、(b)との併用を禁忌とする旨の(a)の改訂がなされた。しかし、それ以降も慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいことうを使用して間質性肺炎が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省(当時)より関係製薬企業に対して(c)の配布が指示された。

	a	b	c
1	使用上の注意	インターロイキン製剤	緊急安全性情報
2	取扱い上の注意	インターフェロン製剤	緊急安全性情報
3	使用上の注意	インターフェロン製剤	緊急安全性情報
4	取扱い上の注意	インターロイキン製剤	安全性速報
5	使用上の注意	インターフェロン製剤	安全性速報

問54 以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「してはいけないこと」の項目中に、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされている成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a インドメタシン
- b アスピリン
- c コデインリン酸塩水和物
- d ブロモバレリル尿素

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問55 以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「小児における年齢制限」として、「3歳未満の小児」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 ヒマシ油類
- 2 アミノ安息香酸エチル
- 3 オキセサゼイン
- 4 サリチル酸ナトリウム

問56 以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「出産予定日12週以内の妊婦」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物
- 2 ブロモバレリル尿素
- 3 ロペラミド塩酸塩
- 4 次硝酸ビスマス
- 5 アスピリンアルミニウム

問57 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アミノフィリン水和物は、乳児に神経過敏を起こすことがあるため、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」とされている。
- b リゾチーム塩酸塩を服用すると、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、「前立腺肥大による排尿困難の症状がある人」は服用しないこととされている。
- c 水酸化アルミニウムゲルを服用すると、胃液の分泌が亢進するおそれがあるため、「胃潰瘍の診断を受けた人」は服用しないこととされている。
- d タンニン酸アルブミンは、乳製カゼインを由来としているため、「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」は服用しないこととされている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問58 以下の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に、「モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン塩酸塩等）で治療を受けている人」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 3 グリチルリチン酸二カリウム
- 4 ピコスルファートナトリウム
- 5 イブプロフェン

問59 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 メチルエフェドリン塩酸塩が配合された医薬品は、心臓に負担をかけ、心臓病を悪化させるおそれがあるため「心臓病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- 2 マオウが配合された医薬品は、肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病の症状を悪化させるおそれがあるため、「糖尿病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- 3 ジフェンヒドラミン塩酸塩が配合された医薬品は、生じた血栓が分解されにくくなるため、「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）」、「血栓症を起こすおそれのある人」は「相談すること」とされている。
- 4 スクラルファートが配合された医薬品は、過剰のアルミニウムイオンが体内に貯留し、アルミニウム脳症、アルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、「腎臓病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。

問60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 青少年では、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分ではなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるため、小中学生のうちからの啓発は望ましくない。
- b 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じ得る。
- c 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するが、社会的な弊害を生じるおそれはない。
- d 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	誤